

平成26年度第2回モニター会議より意見抜粋（報告）

日時 平成27年3月29日（日）午後2時～午後4時 企画室 AB

立会い 一般公募モニター（6名）

（石井亜樹、嵩範子、近藤均、都築徳紀、吉田真砂、米積志保）

事務局

（榎山局長、生田事業係長、中根主事、笹山主事）

1. 前回のモニター会議の振り返り、改善中の取り組み報告

事務局 第1回モニター会議の内容は、議事録として記録され、文化の家の運営委員会・企画委員会で報告された。

前回の会議のポイント：情報発信にもっと工夫が必要ではないか

を踏まえ、来年度事業について、文化の家では広報活動に1番力を入れようという考えである。

①新たな創造スタッフ「広報系創造スタッフ」2名の起用

文化の家は創造スタッフ制度があり、新たに広報系のスタッフ2名を採用し、主に広報宣伝してもらうこととしていく。文化の家の事業は年間150本と多く、担当が事業を運営しながら片手間で広報している状況である。他会館では、うちの事業費くらい広報費に費やしているところもある。広報は、効き目が数字で表しにくい特性があり、広報費の確保が難しい。そこで、創造スタッフという制度を使って、音楽系・演劇系に通じるスタッフを1名ずつ雇うという方法を試すことにした。

②文化の家ホームページのリニューアル事業

現在の役所の様式での、文字ばかりのホームページから、写真などを取り入れた、文化の家独自のホームページへリニューアルを行う。各事業の魅力がより伝わりやすいホームページになるように計画中である。

③広報アドバイザーの新設

ご覧いただいている集合チラシは、編集のプロからのアドバイスによって、今回からデザインを一新し、より読み手の目線がメインのイベントに集まりやすいものになった。もともと雑誌ぴあで編集長をされていた方をアドバイザーに迎え、今年の12月から月1回広報会議を開催している。いろいろな宣伝方法について指摘をもらったり、新しい集合チラシのアドバイスをもらったりしている。

おおまかには、前回の会議の後、このような取り組みを行った。今後も様々なご意見をいただければと思っている。

2. 間口の広い事業（子ども向けプログラム・アウトリーチ）について

□名演への招待シリーズ vol.14 ゲヴァントハウスカルテット

事務局 特徴としては、キッズプログラムの実施。出演者は子ども向けのプログラムをやったことがないとのことで、200年の歴史の中で初めての取り組みであったかもしれない。

モニター1 ゲヴァントハウスの公演が企画された経緯はどのようなものか。

事務局 キッズプログラムを行えたというのが理由の1つ。すばらしい演奏が、一部の方のみ楽しめるプログラムになってしまうのは避けたい。誰でも参加できるような間口の広いものをやりたいと考える。カルテットはクラシックの中でも基本の音楽形態であり、ほとんどの作曲家がつくる重要なレパートリーである。文化の家では前段階として、「室内楽で聴こう！」シリーズで、カルテットの聴き手を育ててきた。4年目にして、一流の音楽を聞いてもらう機会を設けた。

モニター2 キッズプログラムを交渉したかいがある内容だった。長久手は20年、30年後を見据えて取り組みを行っている街であるので、子どものうちからこのような感動を与える機会を提供するのは良いことだ。

モニター3 その一方で、本物を聞ける子どもは一部の恵まれた家庭の人だけであるように感じた。であーとのように、いろいろな形で広く子ども達にチャンスを与えられればよりよい。

事務局 われわれも、会館に来る人だけでなく、あまねく出張の機会を提供したいという考えを持っている。文化の家で持っているクオリティ・ノウハウをここにとどめず、街中で展開していく企画を考えている。来年度はジャズとカルテットを市内の店とコラボして行いたいと考えている。

□音楽系創造スタッフによる音楽デリバリー

事務局 創造スタッフは普段、アウトリーチを中心に活動し、市内の施設を巡ったり、クリスマスコンサートをプロデュースしたりしている。児童館を巡る取り組みは、音楽デリバリーとあって、開館以来ずっと続けている。

モニター4 児童館でのアウトリーチ公演は公にしているのか。

事務局 児童館のプログラムの1つとして組み込まれているので、広報の範囲は児童館ごとで異なる。

モニター5 知っていれば、こういうものも聴きに行きたかった。文化の家にもチラシなど置いてあればよい。

事務局 これからはモニターのみなさまにも案内をして、モニタリングいただければありがたい。

3. 創造スタッフ・創造博について

モニター6 あのような素晴らしい創造スタッフの存在を最後になって知った。次の創造スタッフは最初に大きく紹介すべき。

事務局 新メンバーについては、4月からのガレリアコンサートで紹介することになっている。創造スタッフは3年～4年が期限であり、若手の育成が目的。ここでの経験を次の活動へのステップにして欲しいと思っている。今度来る創造スタッフは若手で、創造博までのステージを1人でやりきれない状態ではまだない。

モニター1 顔が見えると親しみがわきやすい。若い方が全面に出て、市民が見守るという環境ができやすいのでは。

モニター2 創造博とか、創造スタッフとかいう名称が堅い感じがする。一般市民の感覚だと、よくわかりにくい。もっと親しみやすい名前にすべき。

事務局 創造博という名前は、コンサートシリーズとアートシリーズ2種類どちらもカバーできるようなネーミングを、ということで、メンバーが話し合って決めた。

4. 1年間の総括について

モニター1 提案をして、1つずつ変わるところが目に見えると、達成感があり参加して良かったと思う。

モニター2 送られてくる紙を見て、見たい事業を選ぶのではなく、見られる事業を全てモニタリングする、という形式のほうが、モニターの意味があるのではないか。また、会議で何が知りたいのか文化の家が明らかにした方が、意見がまとまったのではないか。

モニター3 自分のためにモニター制度があった気がする。いろんな意見を聞けて、自分が楽しめる制度であった。今のところ、自分の好きなものしか聞いていないから、他も見たい。

モニター4モニターは、文化の家全体をモニタリングするべきだ。文化は歴史も図書館も含んでいる。長久手市全体の文化の拠点として働いてほしい。文化の家のある長久手は素晴らしい、とより多くの人に分かってほしい。